

那珂町史

近代・現代編

目 次

口 絵

発刊のことば

凡 例

近 代

第一章 近代国家への歩みと那珂地方

第一節 廃藩置県と新しい地方制度

- 府藩県三治の体制 一七 廃藩置県 一九 王申戸籍の実施 一〇 大区・小区制
の発足と明治六年区制 一四 高まる小村合併の気運 二元 明治八年の区制 三三
明治一〇年区制と村長制 三五 人民総代とその選挙 三七 議事所(民会) 三九
町村議事会と民費 四一

第二節 三新法下の各村の再編

- 三新法の制定 五 那珂郡役所の設置 八 連合戸長役場 究 連合村時の
人民総代と町村委会 五 明治一七年改正連合制 六

第三節 地租改正と那珂郡農民一揆 六

明治初期の税制改革プラン 六
地租改正法の内容と実施 七
那珂郡農民一揆
の蜂起 七
耕宅地改租の完成 七
山林原野の改租 八
地租改正の結果
.....八

第四節 草創期の小学校 八

学制発布と小学校の創立 八
小学校教育への努力 八
学区編成・教育内容
.....九
酒出小学校沿革誌・菅谷小学校沿革誌 九
教育令から小学校令へ 九

第五節 維新政府の社寺政策 九

神仏分離と廢仏毀釈 九
祭政一致と大教宣布 一〇
社寺領上知と寺跡復立
一〇
神道国教化と国民教化政策 一〇

第六節 士族解体と徴兵令 一

士族の解体 二
士族鎮台兵から徴兵へ 二
徴兵忌避 二
西南戦争と
徴兵鎮台兵 二七

第七節 自由民権運動 一九

県内の民権結社の活動 一九
土木費の地方負担と県会の分裂 二三
松方デフレ
下の政情と民権活動 二三
民権結社集宣会の活動 二五

第八節 交通・通信の変遷 二〇

那珂地方の街道 二〇
人力車と陸運会社 二三
渡し場と久慈川の渡船場 二毛

久慈川新橋架設	一四	郵便制度の発足	一五
第九節 諸産業の動向			
農業生産力の位置	一五〇	製茶業の盛況	一五三
再編成とその經營	一五六	活発な養蚕	一五六
		酒造業の	
		商品經濟のひろがり	一六一
		金融と地主制	一六三
第一〇節 治安体制の整備			
新しい警察制度の発足	一七一	菅谷警察分署の誕生	一七五
消防組制度	一八四	巡査駐在所等	一九一
第二章 地方自治制度の確立			
第一節 地方行政制度の成立			
府県制、郡制の公布	一八七	那珂郡役所新築問題で紛争	一九〇
		選挙制度の改革	
	一九四		
第二節 地方自治権の拡大			
市制・町村制の公布	一九一	規模合理化の必要性と政府の企画	一九三
制による大合併	一九四	市制・町村	
第三節 日清・日露戦争と那珂地方			
日清戦争と民衆動員	二〇〇	日露戦争と国民動員	二三三
日露講和と国民の動き	二三一	戦時下の国民生活	二七〇

第四節 交通・通信の近代化

太田鉄道開通……[三五] 通信の発達……[四五]

[三五]

第五節 諸産業の進展

近代農業への過渡期……[四九] 養蚕と製糸……[五六] 葉たばこ栽培の拡大……[五七]
 製茶の低迷……[五五] 減少する酒造業……[五六] 請負業・出稼ぎ……[五八] 商業など
 諸営業の進展と肥料商の台頭……[五六] 諸会社の設立と挫折……[五六] 農業の指導奨励
 と農会……[五七] 購買販売信用組合の設立……[五七] 資産家の金融……[五七] 地主制
 と小作地の増加……[五八] 農村の窮乏と市町村制の制定……[五八]

第六節 国民教育の確立

小学校令・町村制実施と小学校……[六一] 國家的な学校行事……[六五] 那珂第一高等小
 学校と組合立高等学校……[六七] 萱谷村・五台村・芳野村組合立農学校……[六九] 夜
 学会・実業補習学校と戊申青年会……[五五] 学校の郷土誌編さん……[五六]

[六一]

第七節 民間武術の発達

民間武術の概要……[三〇三] 新編為我流柔術と那珂地方……[三〇一] 無比流杖術……[三〇六]
 三和無敵流……[三〇八] 武徳会設立による武道の普及……[三〇九]

[三〇一]

第八節 治安施設と消防の発達

警察分署・派出所・駐在所の動向……[三三] 那珂地方消防組の発達……[三四]

第九節 医療の近代化と流行病対策

[三六]

医師と医療	三六	急性伝染病の流行と対策	三一
第一〇節 明治期の自然災害と対策	三五		
久慈川・那珂川の洪水と干ばつ・冷害	三五	久慈川河口開削工事	三三
第三章 大正デモクラシーの時代			
第一節 第一次世界大戦と那珂地方	三五		
第一次世界大戦とシベリア出兵	三五	地方改良運動と木崎村	三六
影響	三六	大戦景気の	
第二節 地方制度の変化	三四		
郡制の廃止	三四	郡農会の変化	三四
		合併後の各村状況	三四
第三節 大正デモクラシーと農村	三五		
菅谷村の政争	三五	普通選挙運動の展開	三七
第四節 陸上交通機関の発展			
乗合馬車	三〇	大郡線と水戸鉄道	三一
		乗合自動車の登場	三五
第五節 産業の推移と農村問題	三七		
「農業・農村問題」の発生と那珂地方	三七	農業の推移	三二
		主要穀物の生産	
養蚕の実績	三七	葉たばこ栽培の普及	三八
金肥の多用と肥料商の台頭	三九	農家戸数と規模	三八
農会と産業組合	三九		
小作組合の設立	三九		

地主・小作関係の推移	二六八	灌漑干拓の一例	三五三	額田の建具屋	三五四
茨城製粉株式会社	三五六	賃金と物価の上昇	三九七	急激な人口の流失	三九七
大正期の繁栄をめぐって	三九九				
第六節 大正期の教育					
根本正の活躍と義務教育の延長	四〇四	菅谷小学校の自由教育と教育改善案	四二一		
青年訓練所	四二六	学校少年団と青年会の活動	四二〇		
第七節 文化の発達					
俳諧の普及	四三五	芸能神楽の振興	四七〇	那珂地方の画人たち	四三一
第八節 水車から内燃機関・電力へ					
動力としての水車	四三六	電灯の普及	四三九		
第九節 消防・治安と未成年者の飲酒禁止法					
消防組の設置	四三三	菅谷警察署と駐在所	四三二	未成年者の飲酒禁止法	四三三
第一〇節 大正期の自然災害と対策					
久慈川洪水とその影響	四六七	平ばつ防止と岩崎・小場江堰	四五〇		
第四章 昭和恐慌から戦争へ					
第一節 昭和恐慌期の那珂地方					
不況必至の昭和初期	四八一	戦前の那珂地方の階層構造	四九〇	小都会的にぎわい	

現 代

第一章 戦後混乱からの脱却

第一節 太平洋戦争の終焉

六〇七

第二節 日中戦争から太平洋戦争へ

第二節 日中戦争から太平洋戦争へ

五二一

第三節 戦時体制下の那珂地方

五四四

- 『神崎村報』の創刊と銃後の守り
- 日米開戦と菅谷監視哨
- 足・価格統制と動員令
- 下耕地整理事業
- 戦前型産業社会の破綻
- 青年学校の設立
- 空襲警報下の那珂地方
- 那珂地方事務所の設置と菅谷村の町制施行
- 水戸北飛行場の建設
- 食糧増産と甘藷の増産
- 農会から農業会へ
- 昭和一三年の大洪水
- 阿弥陀寺・上宮寺への学童集団疎開
- 千代橋・幸久橋の架橋
- 乗合バス会社の統合
- 後藤園彦・信彦兄弟と愛郷会
- 郵便

- 中村製糸所と養蚕業の終焉
- 水郡線全線開通
- 軍需産業主導下の景気回復
- 日中戦争と村々の対応
- 満蒙開拓
- 後藤園彦・信彦兄弟と愛郷会
- 千代橋・幸久橋の架橋
- 乗合バス会社の統合
- 郵便

次
目

第一節 戦後の混乱と民主化 一七

アメリカ軍の進駐 一七 人口の急増と食糧難と悪性インフレ 一〇 経済統制の解除 二三 終戦直後の産業状況 二三 那珂中部用水事業 二四 選挙法の改正と新町村長の誕生 二三 那珂地方の供出と新制中学校の創立 二六

第二節 農地改革と農村の変貌 二三

農地改革までの過程 二三 改革の主役農地委員会 二三 農業会と農民組合 二九 農地の買収と売渡し 二三 未墾地の解放 二九 開拓による入植と増反 二九

第四節 戦後の復興と独立 二三

講和条約の締結と菅谷町の記念行事 二三 地方自治法の制定と那珂地方事務所 二六 農地改革後の農業改革 二一 新農村建設運動と那珂地方 二三

第五節 町村合併と那珂町の誕生 二六

県の合併試案と旧町村の対応 二六 木崎・芳野・戸多村の動向 二四 町村合併の議決と旧町村の解散 二七 那珂町の発足 二三 鹿島地区の瓜連町編入 二六

第二章 高度経済成長と那珂町 二九

第一節 行財政の発展と福祉の増進 二九

ポツダム宣言の受諾 二〇 内地部隊の復員と海外引揚げ者 二一 遺族会の設立 二三

行政機構の拡充と議員の定数減	六九	完納運動と財政の充実	七〇五	児童福祉と	
老人福祉	七〇九	那珂町の赤痢と上下水道の普及	七二八	国民健康保険と芳野診療	
所	七三				
第一節 交通・通信の変化と発展					
道路交通網の整備	七三	自家用車の普及	七三	水郡線の合理化	七三
線放送から公社電話の時代	七三	郵便業務の合理化	七三		
第二節 産業経済の発展					
食糧増産から適地適産へ	七四九	農協の合併	七三	減反政策と総合農政	七三
農業基本法施行	一〇年以後の農畜産業	七三	第二次・第三次産業時代へ	七九	
商工業の伸展	七三	農業の危機と今後の課題	七九		
第四節 教育と文化					
皇民教育の否定と進駐軍の学校観察	七三	教育基本法と六・三制	七九	P.T.A	
と教育委員会	七二	木崎小学校の統合および菅谷小学校の移転新築	七五	中学	
校の統合	七一	県立水戸農業高等学校・那珂高等学校の誘致	七七	新聞・ラジ	
オの普及	〇三	テレビ時代の到来	〇六	那珂町の文化財	〇九
第五節 新しい警察・消防制度と自然災害への克服					
自治体警察の誕生	八五	警防団から消防団へ	八〇	常設消防署の誕生	八三
戦後の自然災害と被害	八三	久慈川・那珂川の改修計画と工事	八三		
第六節 将来の那珂町					
					八三

次 目

生活環境の整備……………八三

那珂町総合計画……………八九

個別計画等の作成……………八三

商

業環境の整備と農業文化の継承……………八五

環境の保全……………八五

那珂町史略年表……………

八七

あとがき……………

八五